

令和6年度 第2回桐生市環境先進都市将来構想推進協議会 議事録

1. 日 時

令和6年10月23日（水） 18：30～20：30

2. 場 所

美喜仁桐生文化会館 第一会議研修室

3. 出席者

(1) 委 員 (9人)

会 長：天谷 賢児 [群馬大学大学院理工学府 教授]
副 会 長：近藤 圭子 [きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長]
委 員：西菌 大実 [群馬大学共同教育学部 名誉教授]
高橋 尚彦 [新田みどり農業協同組合 常務理事]
新井 悠大 [桐生広域森林組合 業務部部长]
佐羽 宏之 [2015年からの生活交通をつくる会 会長]
今泉 芳雄 [桐生市家畜自衛防疫協議会 会長]
坂本久美子 [桐生市女性人材リスト (農業委員・花き栽培)]
村上 恵理 [桐生瓦斯株式会社営業部 次長兼特需課長]
〔欠席者〕根津紀久雄 [特定非営利活動法人北関東産官学研究会 会長]
藤生 五郎 [桐生商工会議所 副会頭]
茂木 理亨 [桐生商店連盟協同組合 副理事長]
小島 由美 [未来創生塾 副塾長]
中野 久美 [桐生市女性人材リスト (建築設計)]

(2) 事務局 (4人)

森下 SDGs推進課長
金子 ゆっくりズムのまち桐生推進担当係長
高橋 主任
今泉 主事

4. 議 題

1. 桐生市環境先進都市将来構想の改定について

令和6年度第1回桐生市環境先進都市将来構想協議会において聴取した意見を反映した改定案について、委員へ意見聴取を行った。

2. 桐生市環境先進都市将来構想実施計画の実績について

令和5年度桐生市環境先進都市将来構想追補版における実績報告、令和5年度桐生市環境先進都市将来構想実施計画における実績報告を行った。

5. 委員意見（質疑応答）

【議題1 桐生市環境先進都市将来構想の改定について】

【委員】

前回から修正が加わり、わかりやすくなった。資料関係のレイアウトを変更したので良いと思う。地球温暖化対策の部分については、桐生で何を実施していくか取り組み内容が重要であると考えます。

第5章資料編の世界のエネルギー情勢の箇所は大きな話でわかりにくい面もあるが、共通理解・共通認識すべき重要な内容である。また、トピックスとなるので最新情報を入れ込んでいただきたい。昨年ドバイで開催されたCOP28において、大きな進展があり、温室効果ガス削減の取り組みを評価するGST（グローバル・ストックテイク）が行われた。その結果、これまでの結果から踏まえた今後の取り組みについての議論がなされ、「化石燃料からの脱却」、「再エネ容量を2030年までに3倍にすること」、「省エネ対策としてエネルギー効率を2倍に上げること」などが決定された。世界中の温室効果ガスの排出状況を国連がとりまとめており、各国は今回のGSTを加味したうえで2035年の温室効果ガス削減目標値を2025年2月までに提出することとなっている。このような最新のトピックスを入れ込んで欲しい。

【委員】

第5章の資料編については、資料編という題目ではない方が良い。

「ゆっくりズムのまち桐生」の宣言をしたが、市民が今までと同じ生活をしていては何も変わらない。なぜ「ゆっくりズムのまち桐生」を宣言したのかをはっきり示していただきたい。

これから世界中でエネルギーの取り合いとなる。そうなった時に桐生は困らないようにすることが「ゆっくりズムのまち桐生」を宣言した一番の目標なのだと思う。強く行動に移せるよう訴えかけるものがあると良い。

【会長】

第5章は、みんなが知っていて欲しい事項として捉えてはどうか。

【委員】

「ゆっくりズムのまち桐生」の定義がスローモビリティ・スローライフとなっているが、MAYUが走っており、スローライフをすれば良いと思われるがそうではない。せっかくの取組を生かさなくてはならない。企業は2030年に使用するエネルギーを1/3にしなければならない。そうなるとどこかで困ることが起きる。企業と家庭の間で歪が出てしまうと思う。

【会長】

現実的に2030年や2050年の目標値のとおり温室効果ガスを減らすことできるのか疑問である。

【委員】

今後温室効果ガス排出について聖域を無くすべく、事業者自ら排出している温室効果ガス以外に、事業者が関連する取引先や従業員への脱炭素もかかわっていくこととなる。

また、今後は家庭部門まで制限が加わることが合意されている。

自治体では東京都が来年度新築の住宅に太陽光発電設備を設置することを義務化する。エネルギーを自分の家でまかなう方法の具体例を示していると思う。

桐生では何ができるのか考えなくてはならないと思う。

【委員】

中小企業は、今後脱炭素に向けた国の義務をはたさないと取引してもらえないことになると思う。

【委員】

脱炭素の取り組みとして、まずは省エネへの取組が重要と考える。また、省エネ診断を実施し、自分達が使っているエネルギーを知ることが第一と考える。市民へ周知をしていき、環境意識の高い市民を増やしていきたい。

【会長】

ライフスタイルの転換について、見てわかりやすいものがあると良いと思う。

【委員】

第5章(5)地域経済の項目について、③地域経済の図5-5-3にある桐生地域のエネルギー収支について、ガス・熱供給の項目がプラス82となるのはなぜか。

【事務局】

市内は桐生ガスの営業地域となるため、都市ガスを利用する市民が桐生ガスへ支払っているお金が循環しているという意味である。

【委員】

ガスは外国から輸入してくるので、厳密的には地域循環とは言えない。

【委員】

再エネなどのエネルギーを地域内で循環することが、本来の意味であると思う。

地域循環の図の後ろに地域の再エネ導入状況などを入れ込むと良いと思う。また、今現在群馬大学で行っているバイオマスの研究のことについてもふれても良いと思う。

【委員】

エネルギーの使用量を現状から1/3に減らした生活がスタンダードであることが求められている。現在の生活から抜け出せないと困ることになると思う。そうならないための考え方がゆっくりズムの考え方であり、そのことがわかりやすく表現できれば良いと思う。

ライフスタイルの転換が見てわかるものがあると良い。

【委員】

国ではインベントリとして、日本国内でどこから CO₂ が排出されているか毎年計算し、その数値をもって地方ごとに按分された値が自治体排出カルテとして毎年度示されている。

CO₂ の吸収については、森林吸収の話もあるが、国では CO₂ を回収する技術（CCU）の委員会が今年できた。どれだけ技術が確立されているかはこれからであると思う。

温室効果ガスをマイナスとしてカウントできれば良いと思う。

【委員】

今年の 1 月に能登地方で震災があり、9 月には豪雨による土砂災害が発生した。

能登でどのような事象が起こったのか、桐生でも近い将来同じような事象が発生する可能性もある。災害が起こったあと復旧するのではなく、未然に防げるまちづくりが必要と考える。今あるものをそのとおりに直すのではなく、人が既に移動して危ない目に合わない土地利用を考えること（コンパクトシティの考え方）が必要と考える。災害についても踏み込んだことが書いてあっても良いと思う。

【会長】

全体的に地球温暖化対策についても、災害対策についても、喫緊の課題であり時間がないため危機的状況を記載しても良いと思う。

【委員】

これまでの将来構想においても災害対策等の記述もあるので大きくずれることは無いと思う。

気候変動の国際的な枠組みについては、1993 年からスタートしており、10 年前まで危機感が無く、信じてもらえなかったが、スーパーコンピューターがシミュレーションしたとおりの現象が現在起こっている。2040 年頃に起こるとされていることが既に 20 年先乗りしている。去年・今年の猛暑のとおり現実に目の前で起こっている。ある種危機感を持ち始めるチャンスでもある。ゆっくりズムの精神を理解し楽しく暮らすことを周知していく必要がある。

【委員】

みんなが不安に感じていることを捉え、桐生の猛暑日数など、既に起こっている事象について、乗り越えるまちにしていくことを記述してはどうか。

具体例がないとわからないと思うので、コラムでも良いので具体例を出すと良いと思う。

【委員】

桐生に置き換えて書いてもらおうとわかりやすい。ある程度方向性が見えてくると思う。

どこでも災害が発生する可能性がある。猛暑と大雨について書いてあると良いと思う。

【委員】

桐生がなぜ高温になるのか。桐生は山に囲まれており、東京の温められた空気が半日で南風に乗って移動してくる。山に囲まれているのでミニフェーン現象が起きやすい地域であると言える。

【副会長】

自分たちが暑さなど身近に感じられると、自分事に感じるができると思う。

計画を読んでいるだけでは他人事になってしまう。

「ゆっくりズムのまち桐生」だとのんびりしているイメージとなるが、危機感が薄れてしまうかもしれない。

【事務局】

災害対策などをメインとすると別の計画となるので記載していく内容のバランスを考えて記載したい。

当初の将来構想のコンセプトである無理をせずがまんを強いられずに価値観を変えていくことが重要と捉えている。今改定においてもコンセプトは当初の通り変更しない。

【会長】

現状から考えて、「災害級のような事象が起こっている中で、私たちは価値観を転換し、ゆっくり楽しく暮らしていく地域をみんなで作り上げることを目指します」というような言い方であると思う。

【事務局】

これまでの将来構想においても災害に強いまちづくりの内容も入っていたので、全く違う内容ではないと考えている。現状の事象を考慮し、これまでより少し強く押した内容での記述を検討していきたい。

【会長】

これまでの社会は、直線的であるリニアエコノミーといった大量生産・大量消費社会であったものから、循環させるサーキュラーエコノミーに産業転換してきている。新しい産業生産構造の転換が図られていると思う。

【委員】

国の第6次環境基本計画のキーワードは「ウェルビーイング」となり、幸せをどのように感じるかがメインとなる。考え方はゆっくりズムと同様であり、快適で幸せを感じるものがウェルビーイングの本質となる。

【会長】

「ゆっくりズムのまち桐生」アイデアコンテストの応募状況はどうか。

【事務局】

9月9日から募集を開始し、現在5件の提出がある。10月末までの期間であるため、周りの方へ再度周知をお願いしたい。

【委員】

宇都宮市のLRTを視察した。利用者は多く見受けられた。人口が増えることを見据えて整備したと思うが、そうではなく人口減少していく中でコンパクト&ネットワークのまちづくりを目指し整備をした。まちの縮小を見越したところが大事だと思う。

LRTは福井県・富山県なども人口減少を見据えた取り組みしている。

【事務局】

「ゆっくりゾムのまち桐生」アイデアコンテストは、些細なことでも良いので応募いただければと考える。また、今回応募状況が少ないが、アイデア募集は継続していくことも考えていきたい。

【会長】

将来構想の目標設定が高いと思うが実現可能なのか。

【事務局】

国の目標でもあるため、達成に向けて取り組んでまいりたい。

そのため、市の事務事業においても推進して行くが、市民や事業者意識を変えてもらうことも市の役割であると考えている。

【委員】

第3章将来像実現・目標達成のための施策・取り組みの基本方針②に市民の役割が記載されている。市民が実際にやっていく取り組みとして行動変容を促すことが必要と考える。

昔の計画のように市だけがやっているということにならないようにしていくと良い。

車を使わずに歩きや自転車で生活できることが重要と考える。

ナローモビリティを推奨するのであれば市役所に専用駐車場を設けるなどしても良いと思う。大きな充電設備を設置すると費用がかかるが、100Vの充電設備であればできそうである。自分の生活の中に起こる仕組みづくりが重要である。

宇都宮ではLRTがあるが、桐生でも上毛電鉄や東武鉄道があるので似たような取り組みはできると考える。

【委員】

ナローモビリティ専用駐車場があると、何でこのようなものがあるのだろうと考える動機付けになると思う。市役所や群馬大学、商店街など目につくような所にあると良い。また、再エネで稼働させると良いと思う。

自転車をかけるラックが市内全体にできると良いと思う。太田市の店舗でも自転車ラックがある。変化として今まで違うものが見えてくると意識が違ってくると思う。前橋はこの

辺ではもっとも進んでいると思う。スペースを取らず、費用も高くないと思う。

【会長】

市全体でできると良い。見える形でアイデアがでると良いと思う。
市役所建て替えが一つのチャンスだと思う。

【委員】

MAYU は、見える形で一番良い乗り物であると感じる。

【委員】

取り組みできる人からやって、その成果を数字で出せば良いと思う。
ナローモビリティは、ガソリン代がどれだけ減ったか具体的に見えてくると思う。

【副会長】

電動アシスト自転車の利用状況や、利用したことによる温室効果ガスの削減効果などがわかると良いと思う。車から電動アシスト自転車に乗り換えたことによりどれだけ変化ができるか見えるだけでも良いと思う。ナローモビリティより抵抗は少ないと思う。

【事務局】

電動アシスト自転車の利用状況や事業効果について記載をおこないたい。

【議題 2 桐生市環境先進都市将来構想実施計画の実績について】

【委員】

実績として目に見えるものが欲しい。ペレットストーブを公共施設に導入できれば良かった。昔と今の変化が、見える化できると良いと思う。

【委員】

予算がついたものはやっているが、ついていないものはやっていないとなってしまう。
具体的に実施した事業でどれくらい温室効果ガスを減らしているのかわかると良いと思う。市は ISO14000 を取れていないが、実績を積み重ねていき、次の年の活動に生かせると思う。

【副会長】

桐生市が SDGs 未来都市に選定されているが、実行計画に入っていないのか。

【事務局】

策定当時はまだ SDGs の概念がなかったので SDGs に関する記載がない。
当時から実現が難しい項目も入っており難しい構想だと捉えている。
全体的に、SDGs への取り組みとして資するものは入っていると考える。

【副会長】

どこかに実績として入れても良いと思う

【事務局】

今後の構想についてはこの概念も入れた形で策定していく。

【会長】

世の中の変化のサイクルが早いと思う。今回の構想の改定も変化が早いことを見越しているのか。

[事務局]

将来構想の改定は5年を目途としている。

今回は追補版として改定し、今回はカーボンニュートラルなどが新たに加わり、また、ゆっくりズムの概念も合わせて進めていくこととなる。時代背景を踏まえた中での改定とする。

6. その他

10月27日開催「あつまれSDGs2024」、11月8日開催「SDGs講演会」及び11月23日開催「ゆっくりズムのまち桐生」フォーラムについて、委員に周知した。

— 以上 —